

第5回 （仮称）平和資料館のあり方を考える懇話会

日 時：平成29年5月24日（水）

15：30～16：30

場 所：ホテルクラウンパレス小倉
「香梅の間」（2階）

次 第

1 開 会

2 報 告

- （1）第4回懇話会における委員等の主な意見
- （2）市議会での主な意見

3 議 題

- （1）（仮称）平和資料館のあり方のまとめ

4 閉 会

報告（１）－１

第４回懇話会 市民団体等へのヒアリングでの主な意見

（平成 29 年 4 月 18 日（火）開催）

（仮称）平和資料館のあり方を考える懇話会での議論の参考にするため、以下のとおり、市民団体等へのヒアリングを行った。

１ ヒアリング団体（２団体）

- ・北九州平和資料館をつくる会
- ・WILL（西南女学院大学）

※当初、北九州市自治会総連合会も予定していたが、急遽欠席となったが、事前に意見を聴取していたため、意見を紹介した。

２ 主な意見

【平和資料館の必要性】

- ・資料館に期待している。日本は戦争に向かって進んでいた時代があった。戦争の結果だけでなく、戦争に至る経緯も展示して欲しいと思う。

（北九州平和資料館をつくる会）

- ・歴史を知るため、情報をネットから得ることが多い。貴重な話を聞くことや資料を見る機会が少ない。資料を実際に見て、平和について考えることができる資料館は必要。

（西南女学院大学「WILL」）

- ・戦後の食糧難の時代があったこと等、北九州にもこのような歴史があったことを伝えるためには資料館は必要。

（北九州市自治会総連合会）

【平和資料館のコンセプト、展示内容等】

- ・懇話会で意見があったように、ここでしか見ることができないものを展示することは賛成である。また、五感で感じる展示は大切。私たちの運営する資料館には展示ケースは無い。来館者に当時の教科書や焼夷弾等、実物の資料に触れてほしいと考えている。

（北九州平和資料館をつくる会）

- ・長崎の原爆資料館を見学したことがあった。文字より写真の方が記憶に残った。資料館では文字情報よりイラストや写真の展示をして欲しい。

（西南女学院大学「WILL」）

【平和資料館の建設場所】

- ・北九州市は五市が合併してできたので、旧五市にはそれぞれ戦争の関わりがあったが、資料館は交通の便が良いところがいい。（北九州平和資料館をつくる会）

- ・勝山公園の一角がよいと思う。近くには図書館、文学館があり、コンパクトに市の歴史を知ることができる。

（西南女学院大学「WILL」）

- ・多くの方に来てもらうためには、交通の便がいいところが良い。

（北九州市自治会総連合会）

【その他、平和資料館への意見】

- ・北九州市を知ってもらうために、資料館を観光ツアーに組み込むことも必要ではないか。工場夜景等も含んだ北九州らしいものがアピールできる。

（西南女学院大学「WILL」）

- ・私たちの運営する資料館では、平和の対極にある戦争をしっかり学ぶ。日本は戦争をしてはならないという姿勢で資料を展示している。

（北九州平和資料館をつくる会）

報告（１）－２

第４回「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」での委員の主な意見 (平成 29 年 4 月 18 日（火）開催)

【平和資料館の展示内容・展示方法】

(展示内容)

- ・戦争体験や戦後の苦労等について、語り部の肉声や書かれた文字等、体験者の生の声を大切にすべきだ。
- ・資料館の特色として、映像だけでなく、戦争を体験された方を招いて講演を行うことも必要だ。

(展示方法)

- ・音響や映像技術は発達しており、見て、聞いて分かるという展示が可能なら、子どもたちにも分かるような方法を採用して欲しい。
- ・館内の案内はロボットを使う等、北九州市にある企業の技術を活用することも検討できるのではないかな。

(学びに繋がる工夫)

- ・勝山公園内での設置ならば、近くには図書館等がある。関連資料が図書館にもあるといったお知らせをする等、展示については学びに役立つ工夫して欲しい。
- ・周辺の施設を連携し、常設展示に加えて特別展示を行う等、夏休みに子どもが平和学習で施設を“はしご”できるような展示も必要だ。
- ・東京の昭和館では、子どもたちが平和学習を行うという前提で作られており、子どもたちは映像を見た後、ワークシートに記入し、記憶に留めるということを行っている。展示を見て、感じて、終わりではなく、学びを深める工夫が必要だ。

【建設場所について】

- ・中央図書館横の駐車場付近は大通りに面している。わっしょい百万夏祭りがある時は、物販等を行っており騒がしいのではないかな。近くの遊具がある公園のところが良いのでは。
- ・わっしょい百万夏祭りは年一回であり、駐車場や雑木林の所では物販等は行わないので、問題はないと思う
- ・わっしょい百万夏まつりでは時間帯によって公園への入場が制限されることはあるが、資料館としての利用には影響は無い。
- ・事務局が示したイメージ図では、中央図書館に併設する場合、資料館で図書館のデザインが見えなくなる。また、公園の入り口から見ると、圧迫感がある。
- ・資料館は今後、北九州市の追悼の中心となる可能性がある。建設場所は追悼に相応しい閑静な場所ということをはっきりとすべきではないかな。
- ・気軽に行けるということも大事。勝山公園ならばジョギングした後に資料館に行くこともできる等、何回も行くことができる。

【まとめ（案）全体】

- ・まとめの文言については学術的に正しい表現であるかどうか確認して欲しい。
- ・文言の使い方等は専門家に見てもらったほうが良い。
- ・なぜ、小倉に資料館を設置するのかという原点に返れば、展示内容や建設場所が明確になる。これらが繋がるようなまとめにして欲しい。

報告（２）

市議会での主な意見について

【平和資料館の外観】

○平和資料館と他の施設等との回遊性

建物が雑木林に囲まれ、建物の中に人が入ると静かな場所となるが、建物の外観は近隣の施設等と回遊性を持つことができるような雰囲気にして欲しい。

【平和資料館の機能】

○市外への情報発信

せっかくでできる施設であるので、全国から多くの方に来ていただけるよう、情報発信の機能もしっかり持たせるような取り組みも必要。結果として、北九州市の賑わいにつながってくる。

【平和資料館の名称】

○親しまれるようなネーミング

市民に親しまれるとか、この館が持っているコンセプトをしっかり表すような相応しいネーミングが必要である。

議題（１）

（仮称）平和資料館のあり方について（案） （懇話会まとめ）

1 （仮称）平和資料館のコンセプトについて

（１）建設の趣旨

北九州市域の歴史を振り返ると、明治・大正期には工業都市・港湾都市として著しい発展を遂げ、日本の近代化を支えた時代や、昭和期には小倉造兵廠が開設され、軍都としての役割を担っていた時代があった。

このような時代背景のもと、現在の北九州市域は B-29 爆撃機による本土初空襲を受け、小倉が長崎に投下された原子爆弾の第一投下目標となり、実際に原子爆弾を搭載した爆撃機が飛行するなど固有の歴史を有している。

北九州市民はこのような歴史を重く受け止め、後世に戦争の悲惨さや平和の大切さを語り継ぎ、平和な世界の実現のために歩みを続けていく必要がある。

そこで、北九州市と戦争との関わりの歴史を紐解き、特に第二次世界大戦で多くの命が失われた悲劇や市民の労苦などを後世に伝え、二度と戦争の惨禍を繰り返さないよう市民一人ひとりが戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを考える機会を提供するため「（仮称）平和資料館」を建設する。

（２）コンセプト

- ①北九州市と戦争との関わりの歴史や市民の戦争体験などを保存・継承していく施設。
- ②戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて考える機会を提供する施設。

（３）（仮称）平和資料館の機能

- ①展示機能
市民の寄贈品や米国国立公文書館の所蔵資料など、収集資料を活用した展示を行い、北九州市と戦争との関わりや悲惨な戦争に関する歴史の事実を伝えていく。
- ②保存機能
収集資料を適切な環境と方法で保存し、後世に伝えていく。
- ③学習機能
来館者が戦争や平和についてより広く・深く学習する機会を提供する。
- ④交流機能
戦争を知る世代と知らない世代の交流、原爆に関わる長崎市と北九州市の交流などを通して、多くの人びとが戦争や平和について共に考えるための機会を提供する。
- ⑤研究機能
資料収集や展示、平和学習などの充実のための専門的調査・研究機能を確保する。

2 （仮称）平和資料館の展示の基本的な考え

戦争に伴う悲惨な体験や生活を知っている方々が年々減少していく中で、（仮称）平和資料館は“戦争を知らない世代”が館運営の実務を担い、“戦争を知らない世代”に戦争と平和を伝えていく施設となる。そのため、（仮称）平和資料館の展示は来館者の心に残る形で「事実」を伝えるということを重視する。

3 （仮称）平和資料館の主な展示内容

（１）北九州市と戦争との関わりや悲惨な戦争の事実を伝える。

市民から寄せられた戦争や空襲に関する品々から米国国立公文書館の所蔵資料まで、様々な資料をもとに、北九州市と戦争との関わりや悲惨な戦争に関する事実を伝える。

特に北九州市が本土初の本格的空襲を受け、小倉が長崎に投下された原子爆弾の第一投下目標になり、原子爆弾を搭載した爆撃機が飛行した経緯を明示する。合わせて、長崎原爆資料館などが所蔵する原爆関係資料を借り受け、原爆被害の実態についても紹介する。

さらに、北九州が「軍都」として展開したことや、国際情勢の変遷などの歴史的背景についても解説する。

（２）戦争による市民の労苦を伝える。

戦中・戦後の市民の暮らしがわかる資料を活用し、当時の市民生活の労苦を明らかにする。特に来館する子どもたちが身近に理解できるように、当時の子どもたちの生活がわかる資料を活用する。

4 （仮称）平和資料館の主な展示方法

時代背景や市民生活における意味などを含めてわかりやすく解説することを重視し、展示のストーリーを構築・明示し、実物資料を効果的な方法で展示する。

合わせて、写真資料・映像資料などを活用し、最新の音響や映像技術などを駆使して、五感を通じて体験・体感できる展示を行う。

さらに、戦争体験や戦後の労苦などについて、体験者の生の声を伝える工夫を行う。

5 （仮称）平和資料館の建設場所

（仮称）平和資料館は戦争の悲惨さや平和の大切さを考える機会を提供する施設であるとともに、当時の人びとの労苦に思いを馳せ、犠牲となった方々を追悼する施設としての意味を持つため、閑静な場所に建設されることが望ましい。

また多くの人々が来館できるように、市の中心部に位置し、交通の利便性が高い場所が望ましい。

さらに小倉陸軍造兵廠跡地で、長崎に投下された原子爆弾の第一投下目標地であったという歴史的背景や中央図書館や文学館との連携を重視し、地域の歴史について考える機会を拡充していくため、小倉の中心部にある勝山公園内に建設する。

具体的な場所については、勝山公園の中でも閑静な雰囲気を持していること、市民の公園内での活動の妨げにならず、公園のにぎわい機能への影響の少ない「中央図書館横の駐車場奥の雑木林辺り」が相応しい。

(仮称) 平和資料館のあり方について (案)

(懇話会まとめ)

1 (仮称) 平和資料館のコンセプトについて

(1) 建設の趣旨

当時の北九州地域は、兵器を製造した陸軍小倉造兵廠、軍需資材の製造を担った八幡製鐵所、海上輸送の要地となった門司港があり、戦争との関わりが深かった。

そのため、日本で初めて米国の空襲を受けたことや小倉が長崎原爆の投下予定地であり、実際に原爆を積んだ爆撃機が飛行したという北九州市特有の歴史が生まれた。

北九州市民はこのような戦争の歴史を重く受け止め、後世に戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぎ、平和のための歩みを続けていく必要がある。

そこで、北九州市と先の大戦との関わりの歴史を紐解き、戦中・戦後における市民の生活の苦労や多くの命が失われた悲劇等を市民に伝え、二度と戦争の惨禍を繰り返さないよう、市民一人ひとりが平和の大切さや命の尊さを考えるきっかけとする「(仮称) 平和資料館」を建設する。

(2) コンセプト

□北九州市における戦争の悲惨さを保存・継承する施設

□平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなる施設

(3) (仮称) 平和資料館の機能

① 展示機能

歴史資料等を活用した展示を行い、北九州市の戦争に関する歴史の事実を伝える。

② 保存機能

市民から寄贈された生活用品や米国国立公文書館から収集した写真、映像等の資料の考証を進め、戦争の事実を伝える資料を保存する。

③ 学習機能

来館者がより、平和について考える機会を確保するため、必要な書籍等を提供する場を設ける。

④ 交流機能

来館者が実際に戦争を体験された人の思いや願いに触れる機会を提供する。また、平和について共に考えることに繋がるよう他都市の市民等との交流の機会を提供する。

⑤ 研究機能

北九州市の戦争に関する歴史や資料について基礎的・専門な調査研究を行う。

2 （仮称）平和資料館の主な展示内容

（１）北九州市における悲惨な戦争の事実を伝える

市民から寄せられた空襲に関する資料や米国国立公文書館が所蔵している資料等を基に、北九州市における悲惨な戦争の事実を伝える展示を行う。

また、長崎市が所蔵する原爆に関する資料を借り受け、被爆の実情等を伝える展示を行う。

さらに、幕末・明治期から軍都と呼ばれるに到った経緯、開戦前の日本の国際的な立場等、北九州市を取り巻く歴史的背景についても紹介する。

（２）戦争が引き起こした市民の苦労を伝える

市民から寄贈を受けた戦時下の市民の暮らしが分かる資料等を活用し、戦中・戦後の市民の生活の苦労を紹介する。特に来館する子どもたちが当時の生活を感じることができるよう、子どもたちの日常生活等が分かる資料等を展示する。

3 （仮称）平和資料館の主な展示方法

市民から寄贈された資料等を展示するとともに、来館する子どもたちの理解をより深めるため、展示ストーリー等を構築する。

展示方法は、音響や映像技術を駆使し、視覚等に訴えるとともに、手にとって触れる等、五感を通じて体験できる展示を行う。

また、展示資料の時代背景や市民の関わり等を分かりやすく紹介し、来館者が深く当時の状況等を実感できる展示を行う。

4 （仮称）平和資料館の建設場所

交通の結節点であり、来館者の利便性が高い小倉の中で、小倉造兵廠跡地、長崎原爆の投下目標地であった歴史的背景から勝山公園内に建設する。

具体的な場所については、勝山公園の賑わいから離れていることや市民の公園での活動の妨げにならないこと等、公園の機能が損なわれる恐れが少ない駐車場付近（中央図書館の横）が相応しい。